

令和 4 年 6 月 21 日現在

機関番号：25302

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2021

課題番号：19K23320

研究課題名（和文）特別なニーズのある子どもを含む集団への包括的支援：子ども同士の相互作用に注目して

研究課題名（英文）Inclusive Support for Groups Including Children with Special Educational Needs:  
Focusing on Interactions among Children

研究代表者

高橋 彩 (Takahashi, Ayaka)

新見公立大学・健康科学部・助教

研究者番号：10845449

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、特別なニーズのある子どもを含む集団場面において子ども同士の相互作用とその変遷を観察し、特別なニーズのある子どもがクラスメイトと仲間関係を形成するプロセスを明らかにすることを目的とした。まず、交流及び共同学習の文献的検討の結果、交流及び共同学習の多くは「体育」「音楽」などの実技系教科や部活動、行事等で行われる傾向が見られた。また、認定こども園での継続的な観察の結果、観察後期に近づくほど「他者との遊びと楽しさの共有」が頻繁にみられるようになった。支援者の手立てとしては「活動に関する具体的な提案をすることによる誘い」「対象児の望ましい行動を認め伝える」などが行われていた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、特別な教育的ニーズのある子どもを含む集団における関係形成のプロセスおよび子ども同士の相互作用を促進するために支援者が用いる技法について、実際の事例（特別支援学校に在籍する児童の交流及び共同学習の場面・認定こども園に在籍する特別なニーズのある幼児の生活場面）をもとに検討を行った。この研究の知見は特別な教育的ニーズのある子どもたちを含む集団を支援していく際の参考資料となり得ると考えられる。

研究成果の概要（英文）：The present study examined how children with special educational needs are included in mainstream classrooms and how teachers support them. First, the literature review on exchange and joint learning showed that those learning activities are implemented mostly in practical subjects such as P.E. and music. Second, the observational study implemented in a preschool showed that the target child's sharing and affective interaction with peers gradually increased during the observational period. The analysis of teachers' strategy showed that they support the child by giving specific advice towards the activities, and by giving the child feedback on his appropriate behaviors.

研究分野：特別支援教育

キーワード：特別なニーズ 集団 交流 相互作用

## 1. 研究開始当初の背景

近年、インクルーシブ教育と呼ばれる、障害の有無や能力に関係なく、すべての子どもが地域社会における教育・保育の場において包含され、必要な援助が保証されたうえで教育・保育を受ける教育の必要性が高まっている。このような流れを受け、今後我が国においても障害のある子どもと定型発達の子どもの学びの場を共有する機会が増えていくことが予想される。

しかしながら、障害のある児童を含む特別なニーズのある子どもたちは仲間関係の形成において困難を抱えることが少なくないという報告や、社会的排他 (social rejection) を経験する (Odom et al., 2006) という研究報告もある。今後、特別なニーズのある子どもを含む集団において、子どもがクラスメイトとどのように関係を形成し、集団に包括されていくのか、そして教師はどのようにそれを支援しているのかを明らかにすることが必要であると考えられる。

障害のある子どもが集団においてどのように包括され、学び合い、クラスメイトとの社会的相互作用を形成していくのかを長期的に観察した研究は刑部 (1998) の質的研究などがあるものの、全体的にまだ少ないのが現状であり、更なるケーススタディや関わりの変容を定量的に測定した研究を実施していくことが求められる。

## 2. 研究の目的

本研究では、特別なニーズのある子どもを含む集団の生活・学習場面の観察を通して、子ども同士の相互作用とその変遷を観察することで、特別なニーズのある子どもがクラスメイトと仲間関係を形成するプロセスを明らかにすることを目的とする。また、子ども同士の相互作用が起こった際の教師の働きかけも同時に分析することによって、子ども同士の仲間関係を形成する際の効果的な教師の働きかけの分析も行うことを試みる。

本研究が遂行されることによって、特別なニーズのある子どもを含む集団における仲間形成プロセスおよび子ども同士の相互作用を促進するために教師が用いる技法が明らかになることが予想され、今後の実践に役立つ知見を現場に還元することができると考える。

## 3. 研究の方法

研究方法として 文献的検討、 フィールドにおける観察研究を実施した。

### (1) 文献的検討

近年、インクルーシブ教育システムの構築に向けた取り組みの1つとして、「交流及び共同学習」が注目されている。文部科学省による「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」(2012)でも、交流及び共同学習の推進について言及されている。本研究では、交流及び共同学習(特に居住地校交流)に焦点を当て、これまでに教育情報誌等で報告されている居住地校交流の実践を分析することで、居住地校交流においてどのような実践がされているか、どのような課題があるかを考察した。

### (2) フィールドにおける観察研究

本研究では特別なニーズのある子どもを含む集団として「知的障害特別支援学校に在籍する児童の居住地校交流の場面」「認定こども園に在籍する特別なニーズのある児童の生活場面」の2つを取り上げ、その場面での子どもや教師を含む集団のかかわりを分析することを試みた。

## 4. 研究成果

### (1) 文献的検討

交流及び共同学習に注目し、文献研究を行った。集まった文献からは、居住地校交流の多くは「体育」「音楽」などの実技的教科や部活動、行事で行われている傾向があった。また、いくつかのケースでは「副籍」「支援籍」というような制度を置き、実施している事例もあった。

多くの事例で児童生徒の交流の様子は逸話的に報告されているものの、より長期的な実践の観察や、より詳細なかかわりの定量的な分析を蓄積していくことの重要性が示唆された。また、教科において交流及び共同学習を行っているものでも「教科としての学び」という観点からの報告が少ない傾向が示唆された。今後は交流する双方にとっての学びの目標を明確にすることが重要であると考えられた。(高橋彩(2020)居住地校交流における交流及び共同学習に関する実践の状況:教育情報誌等における実践報告から.新見公立大学紀要, 41, 173-177.)

### (2) 障害のある子どもを含む集団場面でのフィールド観察研究

特別支援学校小学部に在籍する児童における居住地校交流の観察研究

知的特別支援学校小学部3学年に在籍する児童の居住地校交流の場面を対象とし、2年間の交流の観察を行い、縦断的に観察を行うことを予定していた。しかし、新型コロナウイルス拡大のためフィールドワークを継続することが難しくなったため、分析に必要なデータが限定的となった。

認定こども園に在籍する特別なニーズのある幼児の継続的な観察研究  
 認定こども園に在籍する特別なニーズのある幼児（3歳児）を対象として半年間（週1回、1回につき2時間程度）継続的に観察を行い、各観察エピソードに関して内容別にカテゴリーに分け、分析を行った（表1）。

表1 内容別カテゴリー

カテゴリー名	定義	記述例
周辺の参加・観察	集団から一步離れたところに位置していたり、活動を遠巻きに観察したりしている姿。	(例1) ...みんなが室内（入り口側）で体操を始めたときも、そこに混じることはなく、教室の内側の方でもう一人（K）と一緒に立っている。体操をしているクラスメイトのことをちらちらと見ている。 (例2) ...自分の組の列の右端、一步離れたところから見ている。4～5名の子どもが一緒に手ぶりを真似ているが、Rはじっと年中組さんを見たり、真似ているクラスメイトをじっと見ていたりする。
参加	集団での活動への興味はやや逸れる瞬間はあるものの、教師からの働きかけなどによって部分的にであっても活動に参加する姿。	(例1) ...鬼ごっこの際は、時折、花壇のダンゴムシに気を取られがちだが、保育士に追いかけられると一目散に逃げたり、というような姿が見られる。 (例2) ...公園での縄跳びは参加したり、しなかったりという感じ。先生と一緒に誘ったり、声掛けをしたりしてくれている。縄跳び終了後は結び方を先生に教えてもらい、縄跳びを片づける。
いざこざや不快な感情の表出	他児や活動に対して自分の不満を意思表示したり、嫌だということを伝えたりする姿。	(例) ...縄跳びで自分の名前が呼ばれると「ヤダ！」と言い、園庭の隅まで走って逃げる。先生がだっこして大縄跳びと一緒に飛ぶが、涙が出て声を出しながら泣く。
活動や他者の意図の受け入れ	最初は拒否を表明していた活動や他者の主張に対して、教師の促しを受けたり、自発的な意思によって受け入れる姿。	(例) ...木の実でネックレスづくり。最初は「やらない、やらない」と言っていた。先生にどんぐりとまつぼっくり「どっちが良い？」と作りたいネックレスの種類を聞かされると、「どっちも嫌」というが、「ストローの色何色にする？」と聞くと「黄色が良いかな」と答える。その後、「どっちに通す？」と聞くと、まつぼっくりを選択し、その後はN先生に促される形でスムーズに活動する机に座ることができる。
好奇心・興味の表出・共有	園の環境や活動に関して興味を示したり、興味の対象について他者に尋ねたり、共有しようとする姿。	(例1) ...外遊びでは虫とり網を持って園庭に出る。観察者が「虫いるかな？」と声をかけると「虫どこにいるの？」と聞き返す。「ちょうちょはいないの？」などいろいろと観察者に話しかける。虫とり網の絵柄を見て「カメはどこに住んでるの？」など話しかける。 (例2) ...ずっと持っている新幹線の本を読んだり、「物語の迷路」をJくんと一緒に見たりしている。Sくんが読んでいる絵本を横から見たりと、他の子の持っている本にも興味を示す姿があった。「恐竜シリーズだ！」とシリーズの本を見つけ、近くにいたHくんに「ねえねえきょうりゅうシリーズ！」と話しかける場面もあった。
先生やクラスメイトとの遊びと楽しさの共有	自由遊び場面において先生やクラスメイトと一緒に遊んだり、笑顔を見せたり快の感情を言語化する姿。	(例) ...Eくん、Hくんとともに行動を一緒にする。木の幹の表面の模様を観察したり、落ちていた枝を剣に見立てて、「鬼退治にいこう」と周りのお友達に配ったりしていた。終わった後は「楽しかったね」「明日もやろうね」という言葉が出た。

その結果、観察後期に近づくほど「他者との遊びと楽しさの共有」が頻繁にみられるようになり、活動への参加が増加した。支援者の手立てとしては「活動に関する具体的な提案をすることによる誘い」「対象児の望ましい行動を認め伝える」などが行われていた。また、安定的な活動への参加が増える中で、他児とのやりとり遊びなどが自然発生的に起こることでかわりが増加したことが示唆された。

<引用文献>

- ・ 刑部育子（1998）「ちょっと気になる子ども」の集団への参加過程に関する関係論的分析．発達心理学研究，9，1-11．
- ・ 文部科学省（2012）共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）．
- ・ Odom, S. L., Zercher, C., Li, S., Marquart, J. M., Sandall, S., & Brown, W. H. (2006) Social acceptance and rejection of preschool children with disabilities: A mixed-

method analysis. *Journal of Educational Psychology*, 98(4), 807-823.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 高橋 彩	4. 巻 41
2. 論文標題 居住地校交流における交流及び共同学習に関する実践の状況：教育情報誌等における実践報告から。	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 新見公立大学紀要	6. 最初と最後の頁 173-177
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋彩・村上理絵	4. 巻 40
2. 論文標題 登園時の歩行に課題のある幼児に対する安全な歩行の獲得を目指した指導の実践	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 新見公立大学紀要	6. 最初と最後の頁 179-183
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上理絵・高橋彩	4. 巻 68
2. 論文標題 他者理解に困難のある幼児に対するビデオ教材を利用した指導の効果の検討：感情の言語化と他者視点の促進に焦点を当てて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 広島大学大学院教育学研究科紀要 第一部（学習開発関連領域）	6. 最初と最後の頁 67-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Takahashi, A.
2. 発表標題 Teaching Children with Special Educational Needs Using Interdependent Group Contingency Strategies: A Review of Practical Studies in Japan
3. 学会等名 The World Congress of the International Association for the Scientific Study of Intellectual and Developmental Disabilities (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋彩・村上理絵
2. 発表標題 登園時の歩行に課題のある幼児に対するビデオ教材を利用した交通安全指導
3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------